

作成日 2010/07/02

改訂日

製品安全データシート

1. 化学物質等及び会社情報

製品名	Crystal Screen Cryo HT Kit TubeNumber #21
製品コード	HPT社 商品コード:HR2-133
会社名	フナコシ株式会社
住所	東京都文京区本郷2 - 9 - 7
担当部門	コンプライアンス室
電話番号	03 - 5684 - 5107
FAX番号	03 - 5802 - 5218
推奨用途及び使用上の制限	研究用試薬
整理番号	PIS0011V00

2. 危険有害性の要約(以下、MSDSは単一物質としての評価に基づき作成)

GHS分類

物理化学的危険性	火薬類 分類対象外 可燃性 / 引火性ガス 分類対象外 可燃性 / 引火性エアゾール 分類対象外 支燃性 / 酸化性ガス類 分類対象外 高压ガス 分類対象外 引火性液体 分類対象外 可燃性固体 分類できない 自己反応性化学品 分類できない 自然発火性液体 分類対象外 自然発火性固体 分類できない 自己発熱性化学品 分類できない 水反応可燃性化学品 分類できない 酸化性液体 分類対象外 酸化性固体 分類できない 有機過酸化物 分類対象外 金属腐食性物質 分類できない
健康に対する有害性	急性毒性(経口) 区分5 急性毒性(経皮) 分類できない 急性毒性(吸入:気体) 分類対象外 急性毒性(吸入:蒸気) 分類できない 急性毒性(吸入:粉塵) 区分3 急性毒性(吸入:ミスト) 分類できない 皮膚腐食性 / 刺激性 分類できない 眼に対する重篤な損傷 / 眼刺激性 分類できない 呼吸器感作性 分類できない 皮膚感作性 分類できない 生殖細胞変異原性 分類できない 発がん性 区分1A 生殖毒性 区分2 特定標的臓器毒性(単回暴露) 分類できない 特定標的臓器毒性(反復暴露) 分類できない 吸引性呼吸器有害性 分類できない
環境に対する有害性	水生環境有害性(急性) 区分3 水生環境有害性(慢性) 分類できない オゾン層有害性 分類できない

GHSラベル要素
シンボル



注意喚起語
危険有害性情報

危険
飲み込むと有害のおそれ
吸入すると有毒
発がんのおそれ
生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
水生生物に有害

注意書き
安全対策

使用前に取扱説明書を入手すること。
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。

応急措置

粉じん、ヒューム、ミスト、蒸気の吸入を避けること。
環境への放出を避けること。
指定された個人用保護具を使用すること。
吸入した場合、呼吸が困難な場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。

保管

気分が悪い時は、医師に連絡すること。
容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。
施錠して保管すること。

廃棄

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

分類に関係しない他の危険有害性
GHSで扱われない他の危険有害性
国・地域情報
重要危険有害性
特有の危険有害性

医薬用外劇物

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別

混合物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学特性	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
カコジル酸ナトリウム (ジメチルアルシン酸ナトリウム)	1.6%w/v	C2H6AsNaO2			124-65-2

分類に寄与する不純物及び安定化添加物

情報なし。

以下、該当する単一成分のMSDSを記載する。

4. 応急措置

吸入した場合

被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚に付着した場合

医師に連絡すること。
気分が悪い時は、医師に連絡すること。

目に入った場合

水と石鹼で洗うこと。
眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。
水で数分間注意深く洗うこと。

飲み込んだ場合	<p>医師の手当、診断を受けること。 口をすすぐこと。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。</p>
<p>予想される急性症状及び 遅発性症状 最も重要な兆候及び症状 応急措置をする者の保護 医師に対する特別注意事項</p>	
5. 火災時の措置	
消火剤	<p>小火災：粉末消火剤、二酸化炭素、散水 大火災：散水、噴霧水、通常の泡消火剤 棒状注水</p>
使ってはならない消火剤 特有の危険有害性	<p>火災によって刺激性、腐食性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。</p>
特有の消火方法	<p>危険でなければ火災区域から容器を移動する。 移動不可能な場合は、容器及び周囲に散水して冷却する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 消火活動は、有効に行える最も遠い距離から、無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消火する。</p>
消火を行う者の保護	
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、 保護具および緊急措置	<p>直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。</p>
環境に対する注意事項 回収・中和	<p>関係者以外の立入りを禁止する。 低地から離れる。 適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。 風上に留まる。 環境中に放出しない。 飛散したものは掃き集めて空容器にできるだけ回収し、安全な場所に移す。 除去後、大量の水を用いてきれいに洗浄する(濃厚な廃液が河川等に排出されないよう注意)。 危険でなければ漏れを止める。</p>
封じ込め及び浄化方法・ 機材 二次災害の防止策	<p>プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐ。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。</p>
7. 取扱い及び保管上の注意	
取扱い	<p>技術的対策 局所排気・全体換気 情報なし。 安全取扱い注意事項 使用前に使用説明書を入手すること。 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。 取扱い後はよく手を洗うこと。 飲み込みを避けること。 皮膚との接触を避けること。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。 粉じん、ヒュームを吸入しないこと。</p>

空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。
環境への放出を避けること。

保管	接触回避	
	技術的対策	保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。
	混触危険物質 保管条件	「10.安定性及び反応性」参照。 還元剤および混触危険物質と離して保管する。 冷所、換気の良い場所で保管すること。 容器を密閉して保管すること。 施錠して保管すること。
	容器包装材料	国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. 暴露防止及び保護措置
管理濃度、許容濃度

	管理濃度 (厚生労働省)	許容濃度 (産衛学会)	ACGIH
カコジル酸ナトリウム (ジメチルアルシン酸ナトリウム)	0.003mg/m3 (Asとして)	未設定	0.01mg/m3(Asとして) (TWA)

設備対策
この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
気中濃度を推奨された管理濃度・許容濃度以下に保つために、工程の密閉化、局所排気、その他の設備対策を使用する。
空気汚染物質を管理濃度・許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。

保護具

呼吸器の保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。 ばく露の可能性のあるときは、送気マスク、空気呼吸器、又は酸素呼吸器を着用する。 換気が不十分な場合には、適当な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具 眼の保護具	適切な保護手袋を着用すること。 適切な眼の保護具を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣、保護面を着用すること。

衛生対策
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと
取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質
物理的状态

形状・色 臭い pH	白ないし黄色の粉末または結晶性固体 無臭～微臭 8.4-8.5 (25)
融点/凝固点	60
沸点、初留点及び沸騰範囲	データなし
引火点	データなし
自然発火温度	データなし
燃焼性(固体、ガス)	可燃性(HSDBより)
燃焼又は爆発範囲	データなし
蒸気圧	データなし
蒸気密度	データなし
蒸発速度(酢酸ブチル = 1)	データなし
比重(密度)	0.58
溶解性	水に易溶, エタノールに易溶

オクタノール/水分配係数		データなし
分解温度		データなし
粘度		データなし
10. 安定性及び反応性		
安定性		法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。
危険有害反応可能性		酸と反応して極めて毒性の強いガス、ジメチルアルシンをつくる。 加熱されると分解し、炭素酸化物及びヒ素酸化物のガスやフェームを発生する。 還元剤との接触により、毒性の高いアルシンのガスやフェームを生じる。
避けるべき条件		混触危険物質との接触。加熱。
混触危険物質		還元剤、水素化ホウ素ナトリウム、活性金属(鉄、アルミニウム、亜鉛等)、酸。
危険有害な分解生成物		一酸化炭素、二酸化炭素、ヒ素酸化物(アルシン等)。
その他		
11. 有害性情報		
急性毒性	類推値 実測値 経口	ラットの経口急性毒性試験でLD50が2600mg/kgとの数値があることから、区分5とした。 参考:EU分類ではR25に該当(区分3)
	経皮 吸入	データなし 具体的なデータに欠けるが、EU分類でR23に該当することから区分3(粉塵)とした。尚、R23は他の状態(気体、蒸気、ミスト)でもそれぞれ区分2ないし3に該当するが、空気中の存在濃度が不明の為にこれらについては分類できないとした。
皮膚腐食性/刺激性		データなし
眼に対する重篤な損傷/眼刺激性		データなし
呼吸器感作性又は皮膚感作性		呼吸器感作性:データなし 皮膚感作性:データなし
生殖細胞変異原性		本物質によるものと思われるDNA損傷や4倍体、微小核などが報告されているが、データが少なく分類できない。
発がん性		IRAC(2004)でGroup1に区分されていることから、区分1Aとした。
生殖毒性		具体的なデータに欠けるが、HSDBに胎児死亡の例が記載されていることやヒ素およびヒ素化合物についての、List1のEHC224(2001)のヒトに関する記述『生殖への影響が示唆される』および動物での知見『母体毒性が認められる容量での胎児毒性および催奇性』から区分2とした。
特定標的臓器毒性(単回暴露)		データなし
特定標的臓器毒性(反復暴露)		データなし
吸引性呼吸器有害性		データなし
有害性その他		
12. 環境影響情報		
	環境に対する有害性	

	水生環境有害性(急性)	魚類の96時間LC50が10-100mg/lであるとのデータから、区分3とした。
	水生環境有害性(慢性)	データがなく分類できない。
生態毒性	オゾン層有害性	データがなく分類できない。
残留性	魚毒性 / その他	
分解性		
生態蓄積性		
土壤中の移動性		
環境影響その他		
13. 廃棄上の注意		
残余廃棄物		本品を廃棄する際には、国、都道府県並びにその地方の法規、条例に従うこと。廃棄処理中に皮膚に触れたり、ガスや粉塵、蒸気やミストを吸入しないよう十分注意すること。
汚染容器及び包装		情報なし。
14. 輸送上の注意		
国際規制	国連分類	6.1
	国連番号	1688
	品名(国際輸送品名)	カコジル酸ナトリウム
	容器等級	
	海洋汚染物質	該当しない。
国内規制		該当しない。
追加の規制		
特別安全対策		
緊急時応急措置指針番号		152
15. 適用法令		
毒物及び劇物取締法		毒物(指定令第1条) 砒素化合物
労働安全衛生法		特定化学物質第2類物質、管理第2類物質(特定化学物質障害予防規則第2条第1項第2,5号) 砒素又はその化合物(アルシン及び砒化ガリウムを除く。)
		名称等を表示すべき危険物及び有害物(法57条1、施行令第18条) 砒素及びその化合物(アルシン及び砒化ガリウムを除く。) 政令番号:28の3
		名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9) 砒素及びその化合物 政令番号:458
		特定化学物質特別管理物質(特定化学物質障害予防規則第38条3) 砒素又はその化合物(アルシン及び砒化ガリウムを除く。)
水質汚濁防止法		有害物質(法第2条、令第2条、排水基準を定める省令第1条)

船舶安全法	毒物類・毒物
航空法	毒物類・毒物
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	特別管理産業廃棄物(法第2条第5項、施行令第2条の4)
労働基準法	疾病化学物質(法第75条第2項、施行規則第35条・別表第1の2第4号1・昭53労告36号) 砒素及びその化合物(砒化水素を除く)

16. その他の情報
参考文献

安全衛生情報センター GHS対応モデルMSDS
 製品評価技術基盤機構 Chemical Risk Information Platform (CHRIP)
 日本ケミカルデータベース ezCRIC
 経済産業省 事業者向けGHSガイダンス
 GHS対応ガイドライン(改定2版)
 Hazardous Substance Data Bank (HSDB)
 PubChem Compound

その他

危険・有害性の評価は必ずしも十分でないので、取扱いには十分注意して下さい。

本データシートは情報を提供するもので、記載内容を保証するものではありません。

表記の試験研究用試薬以外に本データシートを適用しないで下さい。
 輸送中、保管中、廃棄後も含めて、内容物や容器が、製品知識を有しない者の手に触れぬよう、厳重に注意して下さい。

作成日 2010/07/02

改訂日

製品安全データシート

1. 化学物質等及び会社情報

製品名	Crystal Screen Cryo HT Kit TubeNumber #15, #28
製品コード	HPT社 商品コード:HR2-133
会社名	フナコシ株式会社
住所	東京都文京区本郷2 - 9 - 7
担当部門	コンプライアンス室
電話番号	03 - 5684 - 5107
FAX番号	03 - 5802 - 5218
推奨用途及び使用上の制限	研究用試薬
整理番号	PIS0011V00

2. 危険有害性の要約(以下、MSDSは単一物質としての評価に基づき作成)

GHS分類

物理化学的危険性	火薬類 分類対象外 可燃性 / 引火性ガス 分類対象外 可燃性 / 引火性エアゾール 分類対象外 支燃性 / 酸化性ガス類 分類対象外 高压ガス 分類対象外 引火性液体 分類対象外 可燃性固体 分類できない 自己反応性化学品 分類できない 自然発火性液体 分類対象外 自然発火性固体 分類できない 自己発熱性化学品 分類できない 水反応可燃性化学品 分類できない 酸化性液体 分類対象外 酸化性固体 分類できない 有機過氧化物 分類対象外 金属腐食性物質 分類できない
健康に対する有害性	急性毒性(経口) 区分5 急性毒性(経皮) 分類できない 急性毒性(吸入:気体) 分類対象外 急性毒性(吸入:蒸気) 分類できない 急性毒性(吸入:粉塵) 区分3 急性毒性(吸入:ミスト) 分類できない 皮膚腐食性 / 刺激性 分類できない 眼に対する重篤な損傷 / 眼刺激性 分類できない 呼吸器感作性 分類できない 皮膚感作性 分類できない 生殖細胞変異原性 分類できない 発がん性 区分1A 生殖毒性 区分2 特定標的臓器毒性(単回暴露) 分類できない 特定標的臓器毒性(反復暴露) 分類できない 吸引性呼吸器有害性 分類できない
環境に対する有害性	水生環境有害性(急性) 区分3 水生環境有害性(慢性) 分類できない オゾン層有害性 分類できない

GHSラベル要素
シンボル



注意喚起語
危険有害性情報

危険
飲み込むと有害のおそれ
吸入すると有毒
発がんのおそれ
生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
水生生物に有害

注意書き
安全対策

使用前に取扱説明書を入手すること。
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。

応急措置

粉じん、ヒューム、ミスト、蒸気の吸入を避けること。
環境への放出を避けること。
指定された個人用保護具を使用すること。
吸入した場合、呼吸が困難な場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。

保管

気分が悪い時は、医師に連絡すること。
容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。
施錠して保管すること。

廃棄

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

分類に関係しない他の危険有害性
GHSで扱われない他の危険有害性
国・地域情報
重要危険有害性
特有の危険有害性

医薬用外劇物

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別

混合物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学特性	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
カコジル酸ナトリウム (ジメチルアルシン酸ナトリウム)	1.4%w/v	C2H6AsNaO2			124-65-2

分類に寄与する不純物及び安定化添加物

情報なし。

以下、該当する単一成分のMSDSを記載する。

4. 応急措置

吸入した場合

被災者を新鮮な空気のある場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚に付着した場合

医師に連絡すること。
気分が悪い時は、医師に連絡すること。

目に入った場合

水と石鹼で洗うこと。
水の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当を受けること。
水で数分間注意深く洗うこと。

飲み込んだ場合	<p>医師の手当、診断を受けること。 口をすすぐこと。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。</p>
<p>予想される急性症状及び 遅発性症状 最も重要な兆候及び症状 応急措置をする者の保護 医師に対する特別注意事項</p>	
5. 火災時の措置	
消火剤	<p>小火災：粉末消火剤、二酸化炭素、散水 大火災：散水、噴霧水、通常の泡消火剤 棒状注水</p>
使ってはならない消火剤 特有の危険有害性	<p>火災によって刺激性、腐食性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。</p>
特有の消火方法	<p>危険でなければ火災区域から容器を移動する。 移動不可能な場合は、容器及び周囲に散水して冷却する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 消火活動は、有効に行える最も遠い距離から、無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消火する。</p>
消火を行う者の保護	
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、 保護具および緊急措置	<p>直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。</p>
環境に対する注意事項 回収・中和	<p>関係者以外の立入りを禁止する。 低地から離れる。 適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。 風上に留まる。 環境中に放出しない。 飛散したものは掃き集めて空容器にできるだけ回収し、安全な場所に移す。 除去後、大量の水を用いてきれいに洗浄する(濃厚な廃液が河川等に排出されないよう注意)。 危険でなければ漏れを止める。</p>
封じ込め及び浄化方法・ 機材 二次災害の防止策	<p>プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐ。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。</p>
7. 取扱い及び保管上の注意	
取扱い	<p>技術的対策 局所排気・全体換気 情報なし。 安全取扱い注意事項 使用前に使用説明書を入手すること。 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。 取扱い後はよく手を洗うこと。 飲み込みを避けること。 皮膚との接触を避けること。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。 粉じん、ヒュームを吸入しないこと。</p>

空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。
環境への放出を避けること。

保管	接触回避	
	技術的対策	保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。
	混触危険物質 保管条件	「10.安定性及び反応性」参照。 還元剤および混触危険物質と離して保管する。 冷所、換気の良い場所で保管すること。 容器を密閉して保管すること。 施錠して保管すること。
	容器包装材料	国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. 暴露防止及び保護措置
管理濃度、許容濃度

	管理濃度 (厚生労働省)	許容濃度 (産衛学会)	ACGIH
カコジル酸ナトリウム (ジメチルアルシン酸ナトリウム)	0.003mg/m3 (Asとして)	未設定	0.01mg/m3(Asとして) (TWA)

設備対策
この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
気中濃度を推奨された管理濃度・許容濃度以下に保つために、工程の密閉化、局所排気、その他の設備対策を使用する。
空気汚染物質を管理濃度・許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。

保護具

呼吸器の保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。 ばく露の可能性のあるときは、送気マスク、空気呼吸器、又は酸素呼吸器を着用する。 換気が不十分な場合には、適当な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具 眼の保護具	適切な保護手袋を着用すること。 適切な眼の保護具を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣、保護面を着用すること。

衛生対策
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと
取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質
物理的状态

形状・色 臭い pH	白ないし黄色の粉末または結晶性固体 無臭～微臭 8.4-8.5 (25)
融点/凝固点	60
沸点、初留点及び沸騰範囲	データなし
引火点	データなし
自然発火温度	データなし
燃焼性(固体、ガス)	可燃性(HSDBより)
燃焼又は爆発範囲	データなし
蒸気圧	データなし
蒸気密度	データなし
蒸発速度(酢酸ブチル = 1)	データなし
比重(密度)	0.58
溶解性	水に易溶, エタノールに易溶

オクタノール/水分配係数		データなし
分解温度		データなし
粘度		データなし
10. 安定性及び反応性		
安定性		法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。
危険有害反応可能性		酸と反応して極めて毒性の強いガス、ジメチルアルシンをつくる。 加熱されると分解し、炭素酸化物及びヒ素酸化物のガスやフェームを発生する。 還元剤との接触により、毒性の高いアルシンのガスやフェームを生じる。
避けるべき条件		混触危険物質との接触。加熱。
混触危険物質		還元剤、水素化ホウ素ナトリウム、活性金属(鉄、アルミニウム、亜鉛等)、酸。
危険有害な分解生成物		一酸化炭素、二酸化炭素、ヒ素酸化物(アルシン等)。
その他		
11. 有害性情報		
急性毒性	類推値 実測値 経口	ラットの経口急性毒性試験でLD50が2600mg/kgとの数値があることから、区分5とした。 参考:EU分類ではR25に該当(区分3)
	経皮 吸入	データなし 具体的なデータに欠けるが、EU分類でR23に該当することから区分3(粉塵)とした。尚、R23は他の状態(気体、蒸気、ミスト)でもそれぞれ区分2ないし3に該当するが、空気中の存在濃度が不明の為にこれらについては分類できないとした。
皮膚腐食性/刺激性		データなし
眼に対する重篤な損傷/ 眼刺激性		データなし
呼吸器感作性又は皮膚感 作性		呼吸器感作性:データなし 皮膚感作性:データなし
生殖細胞変異原性		本物質によるものと思われるDNA損傷や4倍体、微小核などが報告されているが、データが少なく分類できない。
発がん性		IRAC(2004)でGroup1に区分されていることから、区分1Aとした。
生殖毒性		具体的なデータに欠けるが、HSDBに胎児死亡の例が記載されていることやヒ素およびヒ素化合物についての、List1のEHC224(2001)のヒトに関する記述『生殖への影響が示唆される』および動物での知見『母体毒性が認められる容量での胎児毒性および催奇性』から区分2とした。
特定標的臓器毒性(単回 暴露)		データなし
特定標的臓器毒性(反復 暴露)		データなし
吸引性呼吸器有害性		データなし
有害性その他		
12. 環境影響情報		
	環境に対する有害性	

	水生環境有害性(急性)	魚類の96時間LC50が10-100mg/lであるとのデータから、区分3とした。
	水生環境有害性(慢性)	データがなく分類できない。
生態毒性	オゾン層有害性	データがなく分類できない。
残留性	魚毒性 / その他	
分解性		
生態蓄積性		
土壤中の移動性		
環境影響その他		
13. 廃棄上の注意		
残余廃棄物		本品を廃棄する際には、国、都道府県並びにその地方の法規、条例に従うこと。廃棄処理中に皮膚に触れたり、ガスや粉塵、蒸気やミストを吸入しないよう十分注意すること。
汚染容器及び包装		情報なし。
14. 輸送上の注意		
国際規制	国連分類	6.1
	国連番号	1688
	品名(国際輸送品名)	カコジル酸ナトリウム
	容器等級	
	海洋汚染物質	該当しない。
国内規制		該当しない。
追加の規制		
特別安全対策		
緊急時応急措置指針番号		152
15. 適用法令		
毒物及び劇物取締法		毒物(指定令第1条) 砒素化合物
労働安全衛生法		特定化学物質第2類物質、管理第2類物質(特定化学物質障害予防規則第2条第1項第2,5号) 砒素又はその化合物(アルシン及び砒化ガリウムを除く。)
		名称等を表示すべき危険物及び有害物(法57条1、施行令第18条) 砒素及びその化合物(アルシン及び砒化ガリウムを除く。) 政令番号:28の3
		名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9) 砒素及びその化合物 政令番号:458
		特定化学物質特別管理物質(特定化学物質障害予防規則第38条3) 砒素又はその化合物(アルシン及び砒化ガリウムを除く。)
水質汚濁防止法		有害物質(法第2条、令第2条、排水基準を定める省令第1条)

船舶安全法	毒物類・毒物
航空法	毒物類・毒物
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	特別管理産業廃棄物(法第2条第5項、施行令第2条の4)
労働基準法	疾病化学物質(法第75条第2項、施行規則第35条・別表第1の2第4号1・昭53労告36号) 砒素及びその化合物(砒化水素を除く)

16. その他の情報
参考文献

安全衛生情報センター GHS対応モデルMSDS
 製品評価技術基盤機構 Chemical Risk Information Platform (CHRIP)
 日本ケミカルデータベース ezCRIC
 経済産業省 事業者向けGHSガイダンス
 GHS対応ガイドライン(改定2版)
 Hazardous Substance Data Bank (HSDB)
 PubChem Compound

その他

危険・有害性の評価は必ずしも十分でないので、取扱いには十分注意して下さい。

本データシートは情報を提供するもので、記載内容を保証するものではありません。

表記の試験研究用試薬以外に本データシートを適用しないで下さい。
 輸送中、保管中、廃棄後も含めて、内容物や容器が、製品知識を有しない者の手に触れぬよう、厳重に注意して下さい。

作成日 2010/07/02

改訂日

製品安全データシート

1. 化学物質等及び会社情報

製品名	Crystal Screen Cryo HT Kit TubeNumber #18, #45, #46
製品コード	HPT社 商品コード:HR2-133
会社名	フナコシ株式会社
住所	東京都文京区本郷2 - 9 - 7
担当部門	コンプライアンス室
電話番号	03 - 5684 - 5107
FAX番号	03 - 5802 - 5218
推奨用途及び使用上の制限	研究用試薬
整理番号	PIS0011V00

2. 危険有害性の要約(以下、MSDSは単一物質としての評価に基づき作成)

GHS分類

物理化学的危険性	火薬類 分類対象外 可燃性 / 引火性ガス 分類対象外 可燃性 / 引火性エアゾール 分類対象外 支燃性 / 酸化性ガス類 分類対象外 高压ガス 分類対象外 引火性液体 分類対象外 可燃性固体 分類できない 自己反応性化学品 分類できない 自然発火性液体 分類対象外 自然発火性固体 分類できない 自己発熱性化学品 分類できない 水反応可燃性化学品 分類できない 酸化性液体 分類対象外 酸化性固体 分類できない 有機過氧化物 分類対象外 金属腐食性物質 分類できない
健康に対する有害性	急性毒性(経口) 区分5 急性毒性(経皮) 分類できない 急性毒性(吸入:気体) 分類対象外 急性毒性(吸入:蒸気) 分類できない 急性毒性(吸入:粉塵) 区分3 急性毒性(吸入:ミスト) 分類できない 皮膚腐食性 / 刺激性 分類できない 眼に対する重篤な損傷 / 眼刺激性 分類できない 呼吸器感作性 分類できない 皮膚感作性 分類できない 生殖細胞変異原性 分類できない 発がん性 区分1A 生殖毒性 区分2 特定標的臓器毒性(単回暴露) 分類できない 特定標的臓器毒性(反復暴露) 分類できない 吸引性呼吸器有害性 分類できない
環境に対する有害性	水生環境有害性(急性) 区分3 水生環境有害性(慢性) 分類できない オゾン層有害性 分類できない

GHSラベル要素
シンボル



注意喚起語
危険有害性情報

危険
飲み込むと有害のおそれ
吸入すると有毒
発がんのおそれ
生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
水生生物に有害

注意書き
安全対策

使用前に取扱説明書を入手すること。
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。

応急措置

粉じん、ヒューム、ミスト、蒸気の吸入を避けること。
環境への放出を避けること。
指定された個人用保護具を使用すること。
吸入した場合、呼吸が困難な場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。

保管

気分が悪い時は、医師に連絡すること。
容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。
施錠して保管すること。

廃棄

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

分類に関係しない他の危険有害性
GHSで扱われない他の危険有害性
国・地域情報
重要危険有害性
特有の危険有害性

医薬用外劇物

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別

混合物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学特性	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
カコジル酸ナトリウム (ジメチルアルシン酸ナトリウム)	1.3%w/v	C2H6AsNaO2			124-65-2

分類に寄与する不純物及び安定化添加物 情報なし。

以下、該当する単一成分のMSDSを記載する。

4. 応急措置

吸入した場合

被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚に付着した場合

医師に連絡すること。
気分が悪い時は、医師に連絡すること。

目に入った場合

水と石鹼で洗うこと。
眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。
水で数分間注意深く洗うこと。

飲み込んだ場合	<p>医師の手当、診断を受けること。 口をすすぐこと。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。</p>
<p>予想される急性症状及び 遅発性症状 最も重要な兆候及び症状 応急措置をする者の保護 医師に対する特別注意事項</p>	
5. 火災時の措置	
消火剤	<p>小火災：粉末消火剤、二酸化炭素、散水 大火災：散水、噴霧水、通常の泡消火剤 棒状注水</p>
使ってはならない消火剤 特有の危険有害性	<p>火災によって刺激性、腐食性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。</p>
特有の消火方法	<p>危険でなければ火災区域から容器を移動する。 移動不可能な場合は、容器及び周囲に散水して冷却する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 消火活動は、有効に行える最も遠い距離から、無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消火する。</p>
消火を行う者の保護	
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、 保護具および緊急措置	<p>直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。</p>
環境に対する注意事項 回収・中和	<p>関係者以外の立入りを禁止する。 低地から離れる。 適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。 風上に留まる。 環境中に放出しない。 飛散したものは掃き集めて空容器にできるだけ回収し、安全な場所に移す。 除去後、大量の水を用いてきれいに洗浄する(濃厚な廃液が河川等に排出されないよう注意)。 危険でなければ漏れを止める。</p>
封じ込め及び浄化方法・ 機材 二次災害の防止策	<p>プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐ。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。</p>
7. 取扱い及び保管上の注意	
取扱い	<p>技術的対策 局所排気・全体換気 情報なし。 安全取扱い注意事項 使用前に使用説明書を入手すること。 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。 取扱い後はよく手を洗うこと。 飲み込みを避けること。 皮膚との接触を避けること。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。 粉じん、ヒュームを吸入しないこと。</p>

空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。
環境への放出を避けること。

保管	接触回避	
	技術的対策	保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。
	混触危険物質 保管条件	「10.安定性及び反応性」参照。 還元剤および混触危険物質と離して保管する。 冷所、換気の良い場所で保管すること。 容器を密閉して保管すること。 施錠して保管すること。
	容器包装材料	国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. 暴露防止及び保護措置
管理濃度、許容濃度

	管理濃度 (厚生労働省)	許容濃度 (産衛学会)	ACGIH
カコジル酸ナトリウム (ジメチルアルシン酸ナトリウム)	0.003mg/m3 (Asとして)	未設定	0.01mg/m3(Asとして) (TWA)

設備対策
この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
気中濃度を推奨された管理濃度・許容濃度以下に保つために、工程の密閉化、局所排気、その他の設備対策を使用する。
空気汚染物質を管理濃度・許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。

保護具

呼吸器の保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。 ばく露の可能性のあるときは、送気マスク、空気呼吸器、又は酸素呼吸器を着用する。 換気が不十分な場合には、適当な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具 眼の保護具	適切な保護手袋を着用すること。 適切な眼の保護具を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣、保護面を着用すること。

衛生対策
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと
取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質
物理的状态

形状・色 臭い pH	白ないし黄色の粉末または結晶性固体 無臭～微臭 8.4-8.5 (25)
融点/凝固点	60
沸点、初留点及び沸騰範囲	データなし
引火点	データなし
自然発火温度	データなし
燃焼性(固体、ガス)	可燃性(HSDBより)
燃焼又は爆発範囲	データなし
蒸気圧	データなし
蒸気密度	データなし
蒸発速度(酢酸ブチル = 1)	データなし
比重(密度)	0.58
溶解性	水に易溶, エタノールに易溶

オクタノール/水分配係数		データなし
分解温度		データなし
粘度		データなし
10. 安定性及び反応性		
安定性		法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。
危険有害反応可能性		酸と反応して極めて毒性の強いガス、ジメチルアルシンをつくる。 加熱されると分解し、炭素酸化物及びヒ素酸化物のガスやフェームを発生する。 還元剤との接触により、毒性の高いアルシンのガスやフェームを生じる。
避けるべき条件		混触危険物質との接触。加熱。
混触危険物質		還元剤、水素化ホウ素ナトリウム、活性金属(鉄、アルミニウム、亜鉛等)、酸。
危険有害な分解生成物		一酸化炭素、二酸化炭素、ヒ素酸化物(アルシン等)。
その他		
11. 有害性情報		
急性毒性	類推値 実測値 経口	ラットの経口急性毒性試験でLD50が2600mg/kgとの数値があることから、区分5とした。 参考:EU分類ではR25に該当(区分3)
	経皮 吸入	データなし 具体的なデータに欠けるが、EU分類でR23に該当することから区分3(粉塵)とした。尚、R23は他の状態(気体、蒸気、ミスト)でもそれぞれ区分2ないし3に該当するが、空気中の存在濃度が不明の為にこれらについては分類できないとした。
皮膚腐食性/刺激性		データなし
眼に対する重篤な損傷/ 眼刺激性		データなし
呼吸器感作性又は皮膚感 作性		呼吸器感作性:データなし 皮膚感作性:データなし
生殖細胞変異原性		本物質によるものと思われるDNA損傷や4倍体、微小核などが報告されているが、データが少なく分類できない。
発がん性		IRAC(2004)でGroup1に区分されていることから、区分1Aとした。
生殖毒性		具体的なデータに欠けるが、HSDBに胎児死亡の例が記載されていることやヒ素およびヒ素化合物についての、List1のEHC224(2001)のヒトに関する記述『生殖への影響が示唆される』および動物での知見『母体毒性が認められる容量での胎児毒性および催奇性』から区分2とした。
特定標的臓器毒性(単回 暴露)		データなし
特定標的臓器毒性(反復 暴露)		データなし
吸引性呼吸器有害性		データなし
有害性その他		
12. 環境影響情報		
	環境に対する有害性	

	水生環境有害性(急性)	魚類の96時間LC50が10-100mg/lであるとのデータから、区分3とした。
	水生環境有害性(慢性)	データがなく分類できない。
生態毒性	オゾン層有害性	データがなく分類できない。
残留性	魚毒性 / その他	
分解性		
生態蓄積性		
土壤中の移動性		
環境影響その他		
13. 廃棄上の注意		
残余廃棄物		本品を廃棄する際には、国、都道府県並びにその地方の法規、条例に従うこと。廃棄処理中に皮膚に触れたり、ガスや粉塵、蒸気やミストを吸入しないよう十分注意すること。
汚染容器及び包装		情報なし。
14. 輸送上の注意		
国際規制	国連分類	6.1
	国連番号	1688
	品名(国際輸送品名)	カコジル酸ナトリウム
	容器等級	
	海洋汚染物質	該当しない。
国内規制		該当しない。
追加の規制		
特別安全対策		
緊急時応急措置指針番号		152
15. 適用法令		
毒物及び劇物取締法		毒物(指定令第1条) 砒素化合物
労働安全衛生法		特定化学物質第2類物質、管理第2類物質(特定化学物質障害予防規則第2条第1項第2,5号) 砒素又はその化合物(アルシン及び砒化ガリウムを除く。)
		名称等を表示すべき危険物及び有害物(法57条1、施行令第18条) 砒素及びその化合物(アルシン及び砒化ガリウムを除く。) 政令番号:28の3
		名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9) 砒素及びその化合物 政令番号:458
		特定化学物質特別管理物質(特定化学物質障害予防規則第38条3) 砒素又はその化合物(アルシン及び砒化ガリウムを除く。)
水質汚濁防止法		有害物質(法第2条、令第2条、排水基準を定める省令第1条)

船舶安全法	毒物類・毒物
航空法	毒物類・毒物
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	特別管理産業廃棄物(法第2条第5項、施行令第2条の4)
労働基準法	疾病化学物質(法第75条第2項、施行規則第35条・別表第1の2第4号1・昭53労告36号) 砒素及びその化合物(砒化水素を除く)

16. その他の情報
参考文献

安全衛生情報センター GHS対応モデルMSDS
 製品評価技術基盤機構 Chemical Risk Information Platform (CHRIP)
 日本ケミカルデータベース ezCRIC
 経済産業省 事業者向けGHSガイダンス
 GHS対応ガイドライン(改定2版)
 Hazardous Substance Data Bank (HSDB)
 PubChem Compound

その他

危険・有害性の評価は必ずしも十分でないので、取扱いには十分注意して下さい。

本データシートは情報を提供するもので、記載内容を保証するものではありません。

表記の試験研究用試薬以外に本データシートを適用しないで下さい。
 輸送中、保管中、廃棄後も含めて、内容物や容器が、製品知識を有しない者の手に触れぬよう、厳重に注意して下さい。

作成日 2010/07/02

改訂日

製品安全データシート

1. 化学物質等及び会社情報

製品名	Crystal Screen Cryo HT Kit TubeNumber #7, #8
製品コード	HPT社 商品コード:HR2-133
会社名	フナコシ株式会社
住所	東京都文京区本郷2 - 9 - 7
担当部門	コンプライアンス室
電話番号	03 - 5684 - 5107
FAX番号	03 - 5802 - 5218
推奨用途及び使用上の制限	研究用試薬
整理番号	PIS0011V00

2. 危険有害性の要約(以下、MSDSは単一物質としての評価に基づき作成)

GHS分類

物理化学的危険性	火薬類 分類対象外 可燃性 / 引火性ガス 分類対象外 可燃性 / 引火性エアゾール 分類対象外 支燃性 / 酸化性ガス類 分類対象外 高压ガス 分類対象外 引火性液体 分類対象外 可燃性固体 分類できない 自己反応性化学品 分類できない 自然発火性液体 分類対象外 自然発火性固体 分類できない 自己発熱性化学品 分類できない 水反応可燃性化学品 分類できない 酸化性液体 分類対象外 酸化性固体 分類できない 有機過氧化物 分類対象外 金属腐食性物質 分類できない
健康に対する有害性	急性毒性(経口) 区分5 急性毒性(経皮) 分類できない 急性毒性(吸入:気体) 分類対象外 急性毒性(吸入:蒸気) 分類できない 急性毒性(吸入:粉塵) 区分3 急性毒性(吸入:ミスト) 分類できない 皮膚腐食性 / 刺激性 分類できない 眼に対する重篤な損傷 / 眼刺激性 分類できない 呼吸器感作性 分類できない 皮膚感作性 分類できない 生殖細胞変異原性 分類できない 発がん性 区分1A 生殖毒性 区分2 特定標的臓器毒性(単回暴露) 分類できない 特定標的臓器毒性(反復暴露) 分類できない 吸引性呼吸器有害性 分類できない
環境に対する有害性	水生環境有害性(急性) 区分3 水生環境有害性(慢性) 分類できない オゾン層有害性 分類できない

GHSラベル要素
シンボル



注意喚起語
危険有害性情報

危険
飲み込むと有害のおそれ
吸入すると有毒
発がんのおそれ
生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
水生生物に有害

注意書き
安全対策

使用前に取扱説明書を入手すること。
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。

応急措置

粉じん、ヒューム、ミスト、蒸気の吸入を避けること。
環境への放出を避けること。
指定された個人用保護具を使用すること。
吸入した場合、呼吸が困難な場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。

保管

気分が悪い時は、医師に連絡すること。
容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。
施錠して保管すること。

廃棄

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

分類に関係しない他の危険有害性
GHSで扱われない他の危険有害性
国・地域情報
重要危険有害性
特有の危険有害性

医薬用外劇物

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別

混合物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学特性	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
カコジル酸ナトリウム (ジメチルアルシン酸ナトリウム)	1.1%w/v	C2H6AsNaO2			124-65-2

分類に寄与する不純物及び安定化添加物 情報なし。

以下、該当する単一成分のMSDSを記載する。

4. 応急措置

吸入した場合

被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚に付着した場合

医師に連絡すること。
気分が悪い時は、医師に連絡すること。

目に入った場合

水と石鹼で洗うこと。
水の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。
水で数分間注意深く洗うこと。

飲み込んだ場合	<p>医師の手当、診断を受けること。 口をすすぐこと。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。</p>
<p>予想される急性症状及び 遅発性症状 最も重要な兆候及び症状 応急措置をする者の保護 医師に対する特別注意事項</p>	
5. 火災時の措置	
消火剤	<p>小火災：粉末消火剤、二酸化炭素、散水 大火災：散水、噴霧水、通常の泡消火剤 棒状注水</p>
使ってはならない消火剤 特有の危険有害性	<p>火災によって刺激性、腐食性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。</p>
特有の消火方法	<p>危険でなければ火災区域から容器を移動する。 移動不可能な場合は、容器及び周囲に散水して冷却する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 消火活動は、有効に行える最も遠い距離から、無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消火する。</p>
消火を行う者の保護	
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項 保護具および緊急措置	<p>直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。</p>
環境に対する注意事項 回収・中和	<p>関係者以外の立入りを禁止する。 低地から離れる。 適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。 風上に留まる。 環境中に放出しない。 飛散したものは掃き集めて空容器にできるだけ回収し、安全な場所に移す。 除去後、大量の水を用いてきれいに洗浄する(濃厚な廃液が河川等に排出されないよう注意)。 危険でなければ漏れを止める。</p>
封じ込め及び浄化方法・ 機材 二次災害の防止策	<p>プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐ。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。</p>
7. 取扱い及び保管上の注意	
取扱い	<p>技術的対策 局所排気・全体換気 情報なし。 安全取扱い注意事項 使用前に使用説明書を入手すること。 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。 取扱い後はよく手を洗うこと。 飲み込みを避けること。 皮膚との接触を避けること。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。 粉じん、ヒュームを吸入しないこと。</p>

空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。
環境への放出を避けること。

保管	接触回避	
	技術的対策	保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。
	混触危険物質 保管条件	「10.安定性及び反応性」参照。 還元剤および混触危険物質と離して保管する。 冷所、換気の良い場所で保管すること。 容器を密閉して保管すること。 施錠して保管すること。
	容器包装材料	国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. 暴露防止及び保護措置
管理濃度、許容濃度

	管理濃度 (厚生労働省)	許容濃度 (産衛学会)	ACGIH
カコジル酸ナトリウム (ジメチルアルシン酸ナトリウム)	0.003mg/m3 (Asとして)	未設定	0.01mg/m3(Asとして) (TWA)

設備対策
この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
気中濃度を推奨された管理濃度・許容濃度以下に保つために、工程の密閉化、局所排気、その他の設備対策を使用する。
空気汚染物質を管理濃度・許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。

保護具

呼吸器の保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。 ばく露の可能性のあるときは、送気マスク、空気呼吸器、又は酸素呼吸器を着用する。 換気が不十分な場合には、適当な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具 眼の保護具	適切な保護手袋を着用すること。 適切な眼の保護具を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣、保護面を着用すること。

衛生対策
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと
取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質
物理的状态

形状・色 臭い pH	白ないし黄色の粉末または結晶性固体 無臭～微臭 8.4-8.5 (25)
融点/凝固点	60
沸点、初留点及び沸騰範囲	データなし
引火点	データなし
自然発火温度	データなし
燃焼性(固体、ガス)	可燃性(HSDBより)
燃焼又は爆発範囲	データなし
蒸気圧	データなし
蒸気密度	データなし
蒸発速度(酢酸ブチル = 1)	データなし
比重(密度)	0.58
溶解性	水に易溶, エタノールに易溶

オクタノール/水分係数		データなし
分解温度		データなし
粘度		データなし
10. 安定性及び反応性		
安定性		法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。
危険有害反応可能性		酸と反応して極めて毒性の強いガス、ジメチルアルシンをつくる。 加熱されると分解し、炭素酸化物及びヒ素酸化物のガスやフェームを発生する。 還元剤との接触により、毒性の高いアルシンのガスやフェームを生じる。
避けるべき条件		混触危険物質との接触。加熱。
混触危険物質		還元剤、水素化ホウ素ナトリウム、活性金属(鉄、アルミニウム、亜鉛等)、酸。
危険有害な分解生成物		一酸化炭素、二酸化炭素、ヒ素酸化物(アルシン等)。
その他		
11. 有害性情報		
急性毒性	類推値 実測値 経口	ラットの経口急性毒性試験でLD50が2600mg/kgとの数値があることから、区分5とした。 参考:EU分類ではR25に該当(区分3)
	経皮 吸入	データなし 具体的なデータに欠けるが、EU分類でR23に該当することから区分3(粉塵)とした。尚、R23は他の状態(気体、蒸気、ミスト)でもそれぞれ区分2ないし3に該当するが、空気中の存在濃度が不明の為にこれらについては分類できないとした。
皮膚腐食性/刺激性		データなし
眼に対する重篤な損傷/眼刺激性		データなし
呼吸器感作性又は皮膚感作性		呼吸器感作性:データなし 皮膚感作性:データなし
生殖細胞変異原性		本物質によるものと思われるDNA損傷や4倍体、微小核などが報告されているが、データが少なく分類できない。
発がん性		IRAC(2004)でGroup1に区分されていることから、区分1Aとした。
生殖毒性		具体的なデータに欠けるが、HSDBに胎児死亡の例が記載されていることやヒ素およびヒ素化合物についての、List1のEHC224(2001)のヒトに関する記述『生殖への影響が示唆される』および動物での知見『母体毒性が認められる容量での胎児毒性および催奇性』から区分2とした。
特定標的臓器毒性(単回暴露)		データなし
特定標的臓器毒性(反復暴露)		データなし
吸引性呼吸器有害性		データなし
有害性その他		
12. 環境影響情報		
	環境に対する有害性	

	水生環境有害性(急性)	魚類の96時間LC50が10-100mg/lであるとのデータから、区分3とした。
	水生環境有害性(慢性)	データがなく分類できない。
生態毒性	オゾン層有害性	データがなく分類できない。
残留性	魚毒性 / その他	
分解性		
生態蓄積性		
土壤中の移動性		
環境影響その他		
13. 廃棄上の注意		
残余廃棄物		本品を廃棄する際には、国、都道府県並びにその地方の法規、条例に従うこと。廃棄処理中に皮膚に触れたり、ガスや粉塵、蒸気やミストを吸入しないよう十分注意すること。
汚染容器及び包装		情報なし。
14. 輸送上の注意		
国際規制	国連分類	6.1
	国連番号	1688
	品名(国際輸送品名)	カコジル酸ナトリウム
	容器等級	
	海洋汚染物質	該当しない。
国内規制		該当しない。
追加の規制		
特別安全対策		
緊急時応急措置指針番号		152
15. 適用法令		
毒物及び劇物取締法		毒物(指定令第1条) 砒素化合物
労働安全衛生法		特定化学物質第2類物質、管理第2類物質(特定化学物質障害予防規則第2条第1項第2,5号) 砒素又はその化合物(アルシン及び砒化ガリウムを除く。)
		名称等を表示すべき危険物及び有害物(法57条1、施行令第18条) 砒素及びその化合物(アルシン及び砒化ガリウムを除く。) 政令番号:28の3
		名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9) 砒素及びその化合物 政令番号:458
		特定化学物質特別管理物質(特定化学物質障害予防規則第38条3) 砒素又はその化合物(アルシン及び砒化ガリウムを除く。)
水質汚濁防止法		有害物質(法第2条、令第2条、排水基準を定める省令第1条)

船舶安全法	毒物類・毒物
航空法	毒物類・毒物
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	特別管理産業廃棄物(法第2条第5項、施行令第2条の4)
労働基準法	疾病化学物質(法第75条第2項、施行規則第35条・別表第1の2第4号1・昭53労告36号) 砒素及びその化合物(砒化水素を除く)

16. その他の情報
参考文献

安全衛生情報センター GHS対応モデルMSDS
 製品評価技術基盤機構 Chemical Risk Information Platform (CHRIP)
 日本ケミカルデータベース ezCRIC
 経済産業省 事業者向けGHSガイダンス
 GHS対応ガイドライン(改定2版)
 Hazardous Substance Data Bank (HSDB)
 PubChem Compound

その他

危険・有害性の評価は必ずしも十分でないので、取扱いには十分注意して下さい。

本データシートは情報を提供するもので、記載内容を保証するものではありません。

表記の試験研究用試薬以外に本データシートを適用しないで下さい。
 輸送中、保管中、廃棄後も含めて、内容物や容器が、製品知識を有しない者の手に触れぬよう、厳重に注意して下さい。